

第三者機関による「はんだぬれ性テスト」

■テスト方法

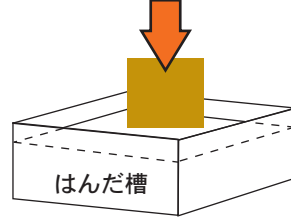
銅板検体を無加工、コローション・インターセプト、気化性防錆フィルムのバッグに入れ、塩霧層に7日間放置し錆の発生を促した後、はんだ槽に浸け、「はんだぬれ性」を検証した。

* 「はんだぬれ性」では金属表面の酸化被膜付着により、はんだののりが変化すると考えられる。



テスト前銅板検体

検体をはんだ槽に浸ける



銅板検体

はんだ付着

◇無加工



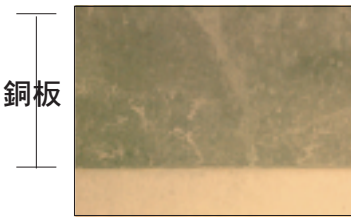
銅板

塩霧テスト後の銅板
全面に錆発生
(肉眼で確認)



- ・ 全面の酸化被膜の形成で「はんだぬれ性」はムラが発生
- ・ 部分的に、はんだ付着せず

◇気化性防錆フィルム

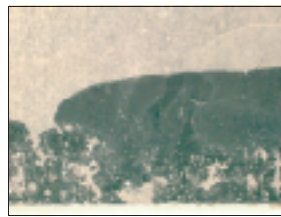


銅板

塩霧テスト後の銅板
全面に錆発生
(顕微鏡で確認)



銅板
はんだ



- ・ 酸化被膜の形成で「はんだぬれ性」はムラが発生
- ・ 部分的に、はんだ付着せず、はんだの厚みにもムラ
(写真中、黒い部分がハンダ)

◇スタティック・インターセプト



銅板

塩霧テスト後
錆の確認されず
(顕微鏡で確認)



銅板
はんだ



- ・ 「はんだぬれ性」「浸水深度」で均一であった
- ・ ピンホールまで、はんだがまわった
(写真中、黒い部分がハンダ)